

## 清水委員提出資料

- ライフリンクの取り組みと本会議で検討すべき議題
- NPO法人ライフリンクのリーフレット
- ライフリンク通信4号（基本法の成立について）
- ライフリンク通信7号（全国キャラバンについて）

第1回自殺対策推進会議

## ライフリンクの取り組みと本会議で検討すべき議題

### 【今年度における取り組み】

#### ◆「声なき声に耳を傾ける自殺実態1000人調査」

自殺のない「生き心地のよい社会」を築くために、自殺で亡くなった人たちの「声なき声」に耳を傾けて自殺の実態を明らかにし、社会的な総合対策の立案につなげていくことが目的。自死遺族支援と連動させるため、遺族支援団体や遺族、弁護士や医療関係者などと協力しながら、昨年6月より全国に展開している。

東京大学経済学部21世紀プログラムCEMANOとの共同調査であり、昨年9月には中間報告として100人分の調査結果を発表した。今年度末までに300人を、来年度中までに1000人分をまとめる予定でいる。調査結果は本会議にも提出し、社会的対策立案のために役立てたい。

#### ◆「自死遺族支援全国キャラバン」(実行委員会事務局)

自殺対策基本法の柱でありながら著しく立ち遅れている自死遺族支援をテーマにしたシンポジウムを、47すべての都道府県で開催して回る大規模プロジェクト。自殺総合対策という新しい枠組みの下、基本法が理念として掲げる「生き心地の良い社会」を目指して、内閣府と連携して取り組んでいる。(これまで開催した都府県は32。年度内には47都道府県すべてを回りきる予定。)

「全国キャラバン」の開催を通じて、滋賀や西多摩、神奈川や佐賀、三重や沖縄などで「自死遺族のつどい(準備会)」が立ち上がり、その他の地域でも官民連携が進んでいる。「全国自死遺族総合支援センター」の設立にもつながり、全国的な自死遺族支援の底上げが図れている。

#### ◆ 啓発活動(常に実務と連動させながら実施)

昨年一年間で、、、

- ▼新聞掲載およそ290回(全国紙が約3割)
- ▼テレビ+ラジオ出演およそ40回
- ▼雑誌およそ30回

### 【本会議で検討すべき議題】

#### ◆「自殺実態1000人調査」の結果を社会的な対策へ

自殺総合対策においては、人を自殺に追いやっている要因を明らかにして、それらに対して対策を講じていくということになっている。「1000人調査」から見えてくる結果を速やかに対策につなげていけるようにしたい。

#### ◆ 検死官制度について

自殺対策の視点からも、検死制度の見直し議論を行っていきたい。

#### ◆ 国の啓発戦略について

警察統計の出し方や自殺予防週間の啓発について、より効果的な方策を議論していきたい。

特定非営利活動法人  
自殺対策支援センター ライフリンク

LIFE  
LINK

新しいつながりが、新しい解決力を生む。

<http://www.lifelink.or.jp>

# 自殺のない『生き心地の良い社会』をめざして

ライフリンクは、自殺対策という『生きる支援』『いのちへの支援』に取り組んでいます。

## 「いのち」をつなぐ 総合力

### 提言力

「自殺総合対策のグランドデザイン」や「自殺対策地域ネットワーク」、「自死遺族支援ガイドライン」等、ライフリンクが活動現場から発信している具体的提言は、国や地方自治体、関係機関等の政策に広く反映されています。

### リンク力

法律の専門家や医師関係者、マスコミや議員、行政や民間団体、文化人や遺族等、さまざまな立場の人たちが理念を共有して協働するためのプラットフォームを構築し、いのちを支えるための「新しいつながり」を創り出しています。

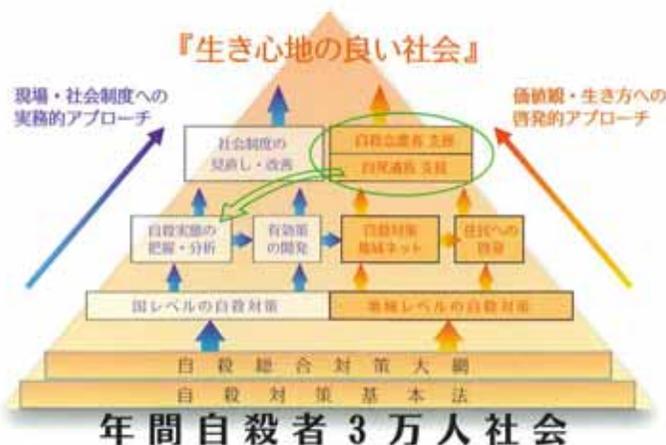
### 解決力

「新しいつながり」を戦略的に創り出すことによって、多様で複雑な現場のニーズにも柔軟かつ迅速に対応できる粘り強い「解決力」(状況の変化に応じて対策を講じながら問題を解決にまで導いていくチカラ)を生み出しています。

### 行動力

自殺総合対策の仕組み作りや、自殺問題をテーマにしたシンポジウムの開催。「自死遺族のつどい(分がち会の場)」の立ち上げ支援、自死遺族の個別相談等。自殺対策の「新しい解決力」として、ライフリンクは自ら行動しています。

LIFE  
LINK



自殺総合対策 推進モデル  
(グランドデザイン)

## 自殺対策の新時代を切り拓く 推進力

ライフリンクの活動が日本の自殺対策を牽引しています  
ライフリンクの活動 国の動き



自殺対策の必要性を社会に伝えていくことも、ライフリンクの重要な活動のひとつです。

1年間の掲載数(2006年)  
全国紙・地方紙あわせて165回

2005年2月16日 朝日新聞



2005年2月21日 読売新聞



2005年3月22日 朝日新聞



2006年4月17日 毎日新聞



2006年5月14日 毎日新聞



## 『ライフリンク通信』

自殺対策の「いま」が手に取るようにわかるニュースレター。ライフリンクの活動予定や報告だけでなく、自殺対策関連の国・地方自治体の動き、また各地の先進的な取り組み等について、最新情報を全国に発信しています。(年4回発行)

>>「ライフリンク通信」のお申し込みは事務局までお問い合わせください。

※テレビ(NHK、TBS)やラジオ(J-WAVE、NACK5)、雑誌(クロワッサン、R25)などでも数多く取り上げられています。

## 『生き心地の良い社会』をめざして

『いのちを守るために、みんなでつながりあっていこう』  
『自殺に追い込まれていくいのちを、みんなでつながりながら守っていこう』  
私たちは「ライフリンク」に、そうした決意を込めています。

めざしているのは『生き心地の良い社会』を築き上げること。  
誰も自殺の脅威にさらされることなく、  
自分自身であることに満足しながら生きることのできる社会の実現です。

いま日本で自殺する人の数は年間3万人。未遂者も含めれば一日1,000人。  
この時代に、この社会で、私たちと同じ空気を吸っているそれだけの数の人が、  
自ら「いのち」を絶っています。

特別な人たちが、特別な理由で、自殺しているわけではありません。  
私たちと同じ日常を生活している人たちが、  
過労や多重債務、いじめや介護疲れ、差別や社会に対する不信感など  
様々な社会問題に追いつめられた末に、  
生きる道を閉ざされて、「自殺」で亡くなっているのです。

現代日本社会の自殺の多くは、  
社会的な対策があれば「避けることのできる死」です。  
その意味で、  
自殺対策とは「生きる支援」「いのちへの支援」でもあると言えます。

誰も自殺に追い詰められることのない社会。  
自殺で大切な人を亡くした人が安心して悲しむことのできる社会。  
それはきっと、自殺とは無関係と思っているひとりひとりにとっても  
生きていて心地の良い社会であるはずです。

『生き心地の良い社会』の実現をめざして。  
ライフリンクは「つながり」をキーワードにした自殺対策、  
「いのちへの支援」に取り組んでいます。

## 寄付金について…

ライフリンクの活動は、会費と寄付(助成金)によって支えられています。

私たちは、この社会を少しでも「生き心地の良い場所」にしていきたいと、自殺対策に取り組んでいます。

ですから、同じ社会に暮らすみなさんに対して、あえて「支援をお願いします」とは申し上げないことにしています。

私たちは、私たちのできるごととして、労力や時間を自殺対策のために割いています。

もし寄付というカタチで貢献したいと思われる方がいらっしゃれば、そのようにして「私たちと一緒に活動していきましょう」と、そうお呼びかけしたいのです。

### 寄付金のお振込はこちらまで

(お手数ですが、事前にご一報いただけたら幸いです)

- ・三菱東京UFJ銀行 渋谷支店 普通 3561088  
トクヒ) ジサツタイサクシエンセンターライフリンク
- ・郵便振替 口座番号: 00190 - 5 - 668723  
加入者名: NPO法人ライフリンク

<http://www.lifelink.or.jp>

NPO法人 ライフリンク

法人番号: 0199-05-010482

〒102-0071

東京都千代田区富士見 2-3-1 信幸ビル302

Tel: 03-3261-4934 Fax: 03-3261-4930

E-mail: info@lifelink.or.jp